

## ハント在日アルゼンチン大使着任される

木村敏夫

Guillermo Hunt（ギジェルモ・ハント）在日アルゼンチン大使が、前大使 Alan Beraud（現亜国ヨーロッパ局長）の後任として着任されました。

ハント大使は外交官養成局で1979年金メダル優秀賞を受賞され外交官としてのキャリアを開始し、1982年には在米大使館勤務、1996年よりブラジルでの勤務を長く繰り返され、2007年には在伯大使職を拝命されました。

今回2020年12月在日本特命全権大使を拝命し本年2月9日に着任されました。ご夫人も近々訪日の予定です。

去る3月26日、当協会遠藤信博会長、木島輝夫副会長、永井慎也理事長が新大使を表敬訪問され、また大使館担当理事渡部千秋/木村敏夫両常務理事が同行しました。大使館側はハント大使とともに、セサル・カンポイ公使、マルティン・コスタンソ書記官が同席されました。

冒頭新大使より着任後2週間の隔離期間はあったが友好親善のために努めてきている。幸いにも程なく美しい桜の季節となり魅了されたとのお話がありました。

またアルゼンチンを離れる前には、ペロー前大使を始め歴代のデジャン、ポルスキー元大使等多くの知日関係者と会い日本について更に深くすることができた。NEC、トヨタ、豊田通商など多数の日系進出企業の皆さんを訪問し精力的に親交を深められてきたとのことでした。



写真左から 永井理事長、ハント大使、遠藤会長

コロナ禍での在日亜国大使となられましたが、衛生面での日本人たちの手洗い、うがい、マスクの習慣徹底には感銘され、ラテンの国々もこれを見習うべきところは多々あると述べられました。また昨年5月国際便フライト往来制限により日本に長期滞留せざるを得なくなったアルゼンチン観光客300人余りに対する当協会役員よりの支援への謝意をハント大使、カンポイ公使からいただきました。

アルゼンチンとの繋がり長い境町との関係維持強化を望まれ、境町の待ち望む東京オリンピック、パラリンピックでのホストタウンとしての成功を祈念されています。文化／スポーツも担当されるマルティン・コンスタン書記官によると、既にフィールド・ホッケーと柔道が境町での合宿を予定しており今後のオリンピック・パラリンピック出場権予選の勝ち上がりでテニスなど更に合宿競技数も増えて行くと期待されていました。

去る4月12日には天皇陛下との信任状捧呈式も行われコロナ禍ではありますが精力的に公務にあたられることとなります。

協会側からは、遠藤会長より、歓迎の意を表され、永井理事長より、協会名誉会長就任の要請、および、来たるべき総会・懇親会の際の大使館施設の使用の要請を行い、いずれも、原則的に了承を頂きました。



木村常務理事    渡部常務理事    遠藤会長    ハント大使    永井理事長    木島副会長

(きむら としお：当協会常務理事)